

その人らしさを大切にした退院支援を心がけています



- ◆ 勤務病棟 : 退院支援室
- ◆ 職種 : 看護師・助産師 (21年目)
- ◆ 出身校 : 岐阜県立衛生専門学校 第一看護学科

Q1 「看護師になってよかった」「うれしかった」「やりがいを感じた」と思ったエピソードを教えてください。

退院支援室で業務をするようになってからは、自宅に帰ることをあきらめていた患者さんが退院支援により希望する療養場所へ退院できた時や、患者さん家族から「ありがとう」「家に帰れるから嬉しい」と言ってもらえ支援に関わることができ良かったと感じます。また退院後訪問に行った際、患者さんから「やっぱり家で過ごすのがいい」とうかがい、住み慣れた場所で自分の思うように過ごしている患者さんを見て、その人らしい生活を取り戻せるような退院支援ができた実感します。

Q3 当センターで働く中で、あなたが成長できたと実感したエピソードを教えてください。

退院支援は退院先を決定するだけの支援ではなく、疾患や障害を抱えた患者さん家族のこれからの療養生活と人生を支える支援です。退院支援の場面では、患者さん家族の希望や思いを聞く機会が多くあります。患者さんや家族の意思や、退院支援における必要な情報を病棟看護師や医師、多職種へアプローチし、多角的視点をもって患者さん家族に寄り添った関わりをしています。

とくに終末期にある患者さんは、病状の進行により希望する療養場所へ移れるタイミングを逃してしまい、希望が叶わない場合もあります。そのためこのような患者さんの場合は、今後を予測し、意思決定支援に関わり、少しでも患者さん家族の希望に添えるような支援を意識しています。

Q3 あなたの看護実践に影響を与えた上司、先輩、同僚とのエピソードを教えてください。

ずいぶん過去のことになりますが、新人の頃に先輩看護師より「ベッドサイドへ積極的に行き、患者さんを自分の目で見て患者さんのことを知るといいよ」と言われたことがあります。その言葉は今でも心に残っており、患者さんの情報はカルテからあらゆる情報を得ることができますが、実際に患者さんを見て、患者の表情や言動、五感を活用して得る情報が一番だと思い患者さんと関わっています。